

「国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業」

(海外メディアFAMトリップ)

実施報告書

2016年3月

公益財団法人 都市活力研究所

2016年3月31日

**「国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業」
(海外メディアFAMトリップ)
実施報告書**

○ 概 要

梅田地区のビジネス魅力を海外に向けて発信するため、専門誌やフリーランスの記者5名を大阪へ招請し、2日間のツアーを行った。

○ 日 程

12/1	10～16時	順次関西空港などへ到着、ホテルへお送り。
12/2	午前 午後	ヘリコプターによる上空からの視察 うめきた2期、梅田地区実践連絡会のプレゼンテーション グランフロント大阪内視察（ナレッジキャピタル、コングレ） 大阪イノベーションハブの取組み紹介及び起業家とのセッション
12/3	午前 午後	阪急梅田駅、インキュベーションオフィス、阪急百貨店 阪神百貨店建替プロジェクト、西梅田地区 大阪ステーションシティ、大阪国際会議場
12/4	順次	帰国

○ 招請記者の概要

氏名	活動拠点	主な執筆媒体
Mark Harris	アメリカ	The Guardian, Economist
Amy Guttman	アメリカ	Forbes, Australia's Financial Review
Sanjay Surana	シンガポール	Corporate Traveller, Meeting & Convention Asia, Huff Post,
David Blecken	香港	CEI Asia
Marisa Cannon	香港	MIX

○ 実施状況

(1) ヘリコプターによる視察

- ・大阪北港の舞洲ヘリポートより出発し15分間の空中よりの視察を行った。大阪市の全体像や位置関係をつかんでいただくとともに、梅田地区の現状を視察していただいた。
(コース) バイエリア～難波～天王寺～大阪城～OBP～梅田上空



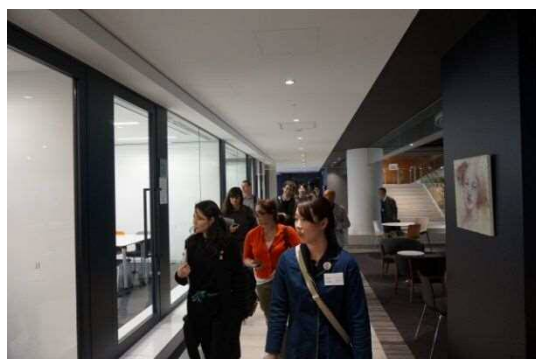
(2) 大阪市・実践連絡会によるプレゼンテーション

- ・大阪市都市計画局より、大阪市の概況とうめきた 2 期開発計画について説明。
- ・梅田地区エリアマネジメント実践連絡会より、エリマネの取り組みについて紹介。



(3) グランフロント大阪視察

- ・ナレッジサロン、フューチャーライフショールーム、ザ・ラボおよびコングレ・コンベンションセンターを案内し、ナレッジキャピタルのコンセプトとそれぞれの機能が果たす役割について説明した。



(4) 大阪イノベーションハブの紹介と、起業家セッション

- ・大阪市経済戦略局より大阪イノベーションハブの取り組みについて紹介
- ・起業家ら 4 名による事業プレゼンと、記者を交えてのディスカッションを行った。



起業家等	プロジェクト名	概要
ATR Creative	地図ぶらり	古地図などを現在地に重ね合わせて街歩き
Play Until Dark	Meet My Dog	近くにいる犬を発見する SNS
あっと株式会社	血管美人	爪の先などの毛細血管で健康診断
都市活力研究所	KBDD	スパコン京を使った創薬プロジェクト

(5) 阪急関係

- ・ 阪急梅田駅・阪急百貨店等の視察
- ・ インキュベーションオフィス「GVH#5」へ案内、阪急電鉄による起業支援活動や投資ファンドの取り組みについて紹介。



(6) 阪神関係

- ・ 梅田阪急オフィスタワー15F ロビーより、阪神百貨店等の建替え（梅田1ー1）プロジェクト現場を見ながら概要を説明。
- ・ 西梅田地区へ移動し、ビルボードライブ大阪、リッツカールトンホテル、インターナショナルメディカルスクエア等を視察。



(7) JR 西日本関係

- ・ 大阪駅構内会議室（J-room）にて、ステーションシティの概要を説明。
- ・ 天空の農園、時空の広場、風の広場等を案内。
- ・ 多言語対応のインフォメーションセンター、祈祷室の紹介。



(8) その他

- 空中庭園展望台、御堂筋イルミネーションを訪問
- 大阪国際会議場の視察

【総括】

- 招請した記者のうち 2 名はビジネス雑誌系、3 名は MICE 専門誌系だったため、興味の対象が全く異なり、全員で同一行動を続けることが困難だった。(行程の途中、一部は 2 名と 3 名で別行動をしている)
- MICE 系記者はあらゆる場面を MICE に結び付けて見ている。たとえばオープンスペースでどのような催事が可能か、など。
- 従ってコンベンション施設なら、施設のスペックなどの資料はもちろんだが過去にどのようなイベントが開催されたのかなど、利用イメージを持つことができる情報提供が必要。
- 1 日中こちらの用意したプログラムで埋めてしまうのではなく、それぞれの記者の興味関心に対応できる自由時間を残しておくことも必要。
- ビジネス面だけでなく都市のライフスタイルにも関心が高く、デパ地下や立ち飲み、住環境にも興味を持っていた。

【添付資料】

- 招請記者一覧
- 情報発信実績 (2016/3/31 現在)

以 上

海外メディアFAMトリップ 参加記者一覧

No.	氏名	拠点国	記事掲載可能なメディア	希望する情報	その他の関心
1	マーク・ハリス	米国、シートル	ガーディアン、エコノミスト、サンデータイムズ、IEEE スペクトラム、MITテクノロジー・レビュー http://www.meharris.com/magazines.html http://www.meharris.com/blogs.html http://www.meharris.com/media.html	1) 序文用に、グリーンな都市という概念に関して予備知識を得られれば幸いです。梅田が持続可能な方法で再開発を進めるうえで採用する技術や新しい働き方など、画期的な新機軸を知りたいと思います。技術や新しい働き方など？ 本文に関する情報について：このプロジェクトは日本のこの地域で最大の再開発計画ですか？梅田に特有の難しいことは何ですか？実際このプロジェクトはなぜ注目に値し、他に例を見ないものといえるのでしょうか？その理由を何でもよいから教えてください。 ロボティクスを扱った記事とすることもできます。今回の旅に選んでいただければ、大阪大学の石黒教授の研究室に自分で直接取材に行くことも可能です。 2) 起業家のどなたかにお会いできるのでしたら、その方の情報をいただけますか？ハイテク関連で起業している方はいますか？ 大阪全般に関して旅の記事を書くことも可能です。以前はよく旅の記事を書いておりましたが、最近はまだ書いていません。編集者の関心を引くいい機会だと思います。	今後始動するハイテクセキュリティ自動車 興味深い人物 ロボット 医療ロボット 技術関係者とのインタビュー エコシステム 都市設計 テクノロジー企業 持続可能な設計 テクノロジーを使うメリット
2	エイミー・ガットマン	米国	フォーブス、オーストラリアン・ファイナンシャル・レビュー http://aguttman.com/about-amy-guttman/	委託 - ビジネストラベラー中東 ランチマガジン www.lunchmag.com. 高級志向のライフスタイルウェブサイト。月間購読者65万人 その他 フォーブスのサイトに掲載するために今回の旅に関する記事を書きますので、その取材を行います。少なくとも1記事、あるいはもっと多くなるかもしれません。 オーストラリアン・ファイナンシャル・レビューにも記事を書いています。 編集面では、独自の調査でいくつかが興味深い事柄を見つけたため、今後もその方面の調査を継続したいと思いますが、ご提案いただかなくても大丈夫です。その中でも、大阪はグルメの天国だと聞いております。ご存知のように一般旅行者、ビジネス旅行者を問わず、アメリカでも飲食関係は大変ホットなトピックです。出張中に地元の素晴らしい料理を味わう機会が持てる、ということは大きなセールスポイントです。これを念頭に、マグロのセリとマグロ専門の料理店にぜひ行ってみたいと思います（下記参照）。日本食の粋の多くは大阪にあると聞いています。大変興味深く、調査のし甲斐があります。また、調査の結果2つの新興企業を見つけました。もちろん他にも興味深い企業を教えてくださいいただけることと思いますので、ぜひお話を聞かせてください。 インタビューを希望する新興企業 - MOFF - 家庭用品を音響効果付きの侍の刀に変身させる 医療技術 - DNAシーケンスの新興企業、クオラムバイオシステムズ: http://asia.nikkei.com/Tech-Science/Tech/Osaka-startup-a-game-changer-in-DNA-sequencing http://www.mddionline.com/article/5-wow-worthy-global-medtech-startups-japan フード - 大阪、日本の台所 食品関係の新興企業または中小企業？ マグロのセリ マグロレストラン- マグロ居酒屋	新興企業 様々な新興企業を比べる ユニークな問題解決策 との違いは？ 大阪の起業家（他の地域） 社会貢献の新興企業 新事業を起こす革新的な方法 ショッピング テクノロジー フード まだ知られていないユニークな新興企業
3	サンジェイ・スラナ	シンガポール	ニューヨーク・タイムズ、コーポレート・トラベラー、CNN、ハフィントンポスト、タイムアウトNY、ウォール・ストリート・ジャーナル、コンデナスト・トラベラー、イースタン・エクスプレス、アフター	1) プロジェクトの全体像を知りたいと思います。日本の他の場所と比較対象すればよいのか（例えば、プロジェクトが終わった時点で大阪の梅田は東京の丸の内に相当するのでしょうか。日本の他の都市ではどこにあたりますか。）、プロジェクトにはレジャー面での強みはありますが、それともビジネス面での開発に重点がおかれているのでしょうか。 2) 不動産関係の記事となる可能性はありますか。例えば梅田は投資目的で不動産を購入するうえで格好の場所である、または富裕層のセカンドハウスとして適しているかなど。高級志向の生活情報誌にも梅田について記事を書けるでしょうか。 3) ミーティングス&コンベンションズ・アジア（米国の有力誌ミーティングス&コンベンションズのアジア版、新刊行）に梅田再開発の記事を掲載したいと思っています。また、シンガポールや東南アジアの高級生活情報誌にも記事売り込みみたいと思っています。この再開発事業により高まる梅田の不動産の魅力や、再開発の結果梅田が日本の新しい大型レジャースポットとなる可能性などについてです。どちらに重点を置くかは、レジャーについて十分な情報をいただけるかどうか次第です。 4) 不動産面については、不動産業者から見積もりや情報をいただくことも必要です。	飲食、起業
4	デイビッド・ブレッケン	香港	CEI（カンファレンス、イベント、インセンティブ）アジア		ブランドキャンペーン（マーケティングニュース） （フォーカスマーケティング） 成功の秘訣 ...の関係者情報
5	マリサ・キャノン	香港	ミックス	MICE、この地域のエンターテインメント、他に例を見ない会場とセールスポイント、相互接続性、団体旅行をこの地に呼び込む独創的なアトラクション。 掲載記事はいただける情報次第ですが、この地域に割り当てられた本編の1から4ページを予定しています。	

広告換算額	¥9,882,000	
記事数	未発行 6~10	発行済み 8

	Author	Publication	PDF No.	Date/ Issue	Title	type	date	Link	Pgs
1	Marisa Canon	MIX	1	Feb/March 2016	Let's meet in... Osaka	print	Feb 4, 2016		1
		Magzter	2	Feb/March 2016	""	digital edition		http://www.magzter.com/HK/Panacea-Asia/Mix---Asia's-Creative-Meetings-Magazine/Travel/	1
		MIX	3	Feb-16	""	web page			0.5
			4	Dec-15	Osaka hopes start-up support lays ground for meetings growth	web page	Dec 14, 2015	http://mixmeetings.com/bulletin/osaka-hopes-startup-support-lays-ground-for-meetings-growth-1420	0.5
		MIX				print			
		MIX				web page			
2	David Blecken	CEI	5	Jan-16	48 hours in Osaka	web version	Jan 25, 2016	http://www.cei.asia/Article/396315.48-hours-in-osaka.aspx	0.5
		CEI		Feb-16	""	print			1
		CEI		Feb-16	""	digital edition			1
		CEI				print			
		CEI	8	Mar	Bright lights, big cities	web version	Mar 30, 2016	http://mixmeetings.com/destinations/bright-lights.-big-cities-1510	4
3	Sanjay Surana	Meetings & Conventions Asia	6	Jan/ Feb	Onward Osaka	print			3
		Robb Report Singapore							
4	Mark Harris	The Guardian	7	Mar-16	Japan's Silicon Valley? Osaka hopes hi-tech startups will reverse economic woes.	web page	Mar 31, 2016	http://www.theguardian.com/sustainable-business/2016/mar/31/all	3
		??							
5	Amy Guttman	Forbes				digital edition			
		Business Traveller				print			
		Middle East Australia's Financial Review				print			
		Lunch Mag, www.lunchmag.com				digital edition			

Let's meet in...

Osaka

Groups will be fascinated by the quirkier side to Japan's second city, but Osaka is also aspiring to be the nation's 'Silicon Valley' by attracting tech start-ups. **Marisa Cannon** reports



USPs

Osaka's downtown Dotonburi district offers groups

the sort of experience that only Japan can offer; home to quirky souvenir touts, street stalls serving deep-fried treats and a seafood restaurant with a giant plastic crab clawing its way up the signage. It's also a shopper's paradise, where assistants appear to be competing for funkiest window display along the trendy Shinsaibashi shopping arcade. Shinsaibashi is famous for shops offering premium Japanese confectionary, clothing, accessories and local beauty products popular with Asian tourists, while nearby in Tachibana-dori, Orange Street is extolled by fashionistas for its collection of independent brands and luxury furniture outlets.

Aspiring to be Japan's Silicon Valley, Osaka has positioned itself as a start-up hub where entrepreneurs are welcomed with open arms. Foreign small and medium-sized enterprises keen on establishing in the city can avail of subsidies on a portion of their investment. Retail space at Grand Front Osaka in Umeda (the area surrounding Osaka Station) has been earmarked for entrepreneurial businesses, housing shops and show rooms that take on a theme of innovation. Groups can host events in parts of Grand Front Osaka, such as at the South Building Terrace Garden opposite Osaka Station or on the ground floor Plaza, where automobile and other launches are often held.



Venues

Osaka International Convention

Centre - Known locally as the Grand Cube, the 12-floor facility is a regular choice for medical conferences. Venues include a circular conference room, event hall and plaza with ramps used during auto launches.

Ritz-Carlton Osaka - The Lobby Lounge hosts daily Afternoon Tea in a European-style tearoom with armchairs and live piano and flute. Dior recently hosted afternoon tea for clients in the lounge, which can accommodate 100 standing.

Hilton Osaka - Located in the heart of Umeda, the hotel unveiled 288 renovated guest rooms in 2014, offering modern and updated Japanese touches to the décor and furnishings. The hotel has 10 banquet rooms, a spacious lobby and glass room for cocktails. Five restaurants can be booked out for events.

Billboard Live Osaka - Located in the basement of Herbis Plaza department store, the bar-cum-theatre can be hired for use during visiting shows as well as a host venue for a company's own entertainment. The space can accommodate around 100 for a sit-down meal directly in front of the main stage, with high tables set up for drinks and snacks in the back of venue.



Connections

Kansai International Airport is a hub for Japan Airlines, All Nippon Airways and Peach, Japan's largest low-cost carrier. Kansai is currently Japan's busiest airport for foreign arrivals thanks to the large number of budget airlines it hosts, alternating with Tokyo's Narita airport for the top slot every few years. The airport provides direct services to 74 cities in 24 countries and regions and is accessible by train to downtown Osaka in 30 minutes. Osaka is also served by Shinkansen (bullet trains) from Tokyo, Nagoya, Kyoto and Sanyo. An hour's train journey from Osaka is the Unesco site of Nara, famed for its giant Buddha, lush parkland and tame, freely wandering deer.



Excursions

River cruises - Groups can take cruises down the Tombori River, which runs through the southern region of Dotonburi. Night cruises will regale groups of up to 20 with bright lights of the electronic and mechanical displays stationed along the canal, including the famous "Glico man" billboard.

Helicopter tours - Osaka has several operators offering 10-20 minute tours of the city by day or night. From 3,000 metres up, groups of three to five can enjoy Osaka sights including Japan's tallest building, the Umeda Sky Building, Osaka Castle, Shitenno-ji temple, Universal Studios and the Kyocera Dome baseball stadium.

Contents

Feb-Mar 2016

COVER ILLUSTRATION: ROSS ST



Regulars

- 04 Editor's Note
- 06 Ideas
- 10 Bulletin
- 14 Show Off
- 16 Centre Stage - Australia
- 18 Themes - Corporate boxes
- 21 Insider - Robert Rogers
- 22 Event Bites - New F&B feature
- 23 Event Deals

Explore

- 26 Let's meet in... Osaka
- 28 Take 5 in... Gold Coast
- 30 Korea - Busan and more
- 36 Vietnam - Colonial ambience
- 44 China - 10 new hotels

Agenda

- 51 Voice - Alcohol at events
- 52 Spotlight - Women
- 56 Examine I - Apec in Manila
- 58 Examine II - Epson World Cup
- 60 Scene Setters - Hicap@IHG
- 62 The Eventist - Wilson Tong



ASIA'S CREATIVE MEETINGS MAGAZINE

FEBRUARY-MARCH 2016

MIX

**EXPLORE**

Meet in Osaka
Gold Coast
10 China hotels
Historic Vietnam
Chosun ones

AGENDA

Sober up your events
Women in the industry
Epson World Cup
Tackling taboos
New: Scene Setters &
Event Bites



APEC LEADERS ROCK IN MANILA

Ideas in this issue

Inspiration for your events and groups





Add drama to dinners and social events in Tokyo with **sumo wrestling** or **Shishi-lion dance** **p.10**

Treat groups to **Michelin-starred dining** at the Longines Grand Masters VIP Masters Club **p.18**

Arrange a **meet-and-greet with a tennis pro** at the Australian Open **p.18**

Get VIP treatment at **Hong Kong Rugby Sevens'** most exclusive venue, The Sportsman's Bar **p.20**

Use **bowls carved from ice** to serve entrees and other dishes on a balmy summer night **p.22**

Host **afternoon tea** in the classically furnished Lobby Lounge of the Ritz-Carlton Osaka **p.26**

Take a **river cruise** and enjoy the lights of Osaka's downtown **Dotonburi** district **p.26**

Soak up the **local atmosphere** and sample street bites from Osaka's **food stalls** **p.26**

Set up **cocktails with mesmerising views** at O'Reilly's Rainforest Retreat, near Gold Coast **p.28**

Host **dinner in an aquarium** at Sea World Resort & Water Park, Gold Coast **p.28**

Transport groups between activities in **fire engines** **p.29**

Organise a **festival-style event** with food trucks, stilt walkers and street performers **p.29**

Offer delegates **panoramic sea views** at Busan's Apec House **p.32**

Take groups on an **evening cruise with champagne** and canapés around **Busan bay** **p.35**

Organise a **heritage tour** around **Bulguksa Temple**, built in the eighth century **p.35**

Let groups **bond** by joining **traditional rice cake-making classes** **p.35**

Host a **car launch** in Grand Hyatt Incheon's new west wing ballroom **p.35**

Treat groups to an **Italian soiree** at the newly opened **Four Seasons Seoul** **p.35**

Live it up with **caviar and champagne** at Caravelle Saigon's champagne bar **p.38**

Take groups on **city tours of Ho Chi Minh City** accompanied by a local historian **p.38**

Gather groups for barbecues at **Park Hyatt Saigon's** renovated poolhouse **p.38**

Offer delegates a taste of **seaside life** with day trips to a local fishing village **p.39**

Get groups on **kayaks** to explore **Halong Bay's** limestone formations **p.39**

Sign up for **tai chi sessions** aboard a cruise, followed by meetings and lunch **p.39**

Take in **Beijing's art culture** at Nuo Hotel and at nearby 798 art district **p.46**

Host groups in an **open garden** on the Grand Hyatt Chengdu's 15th floor **p.46**

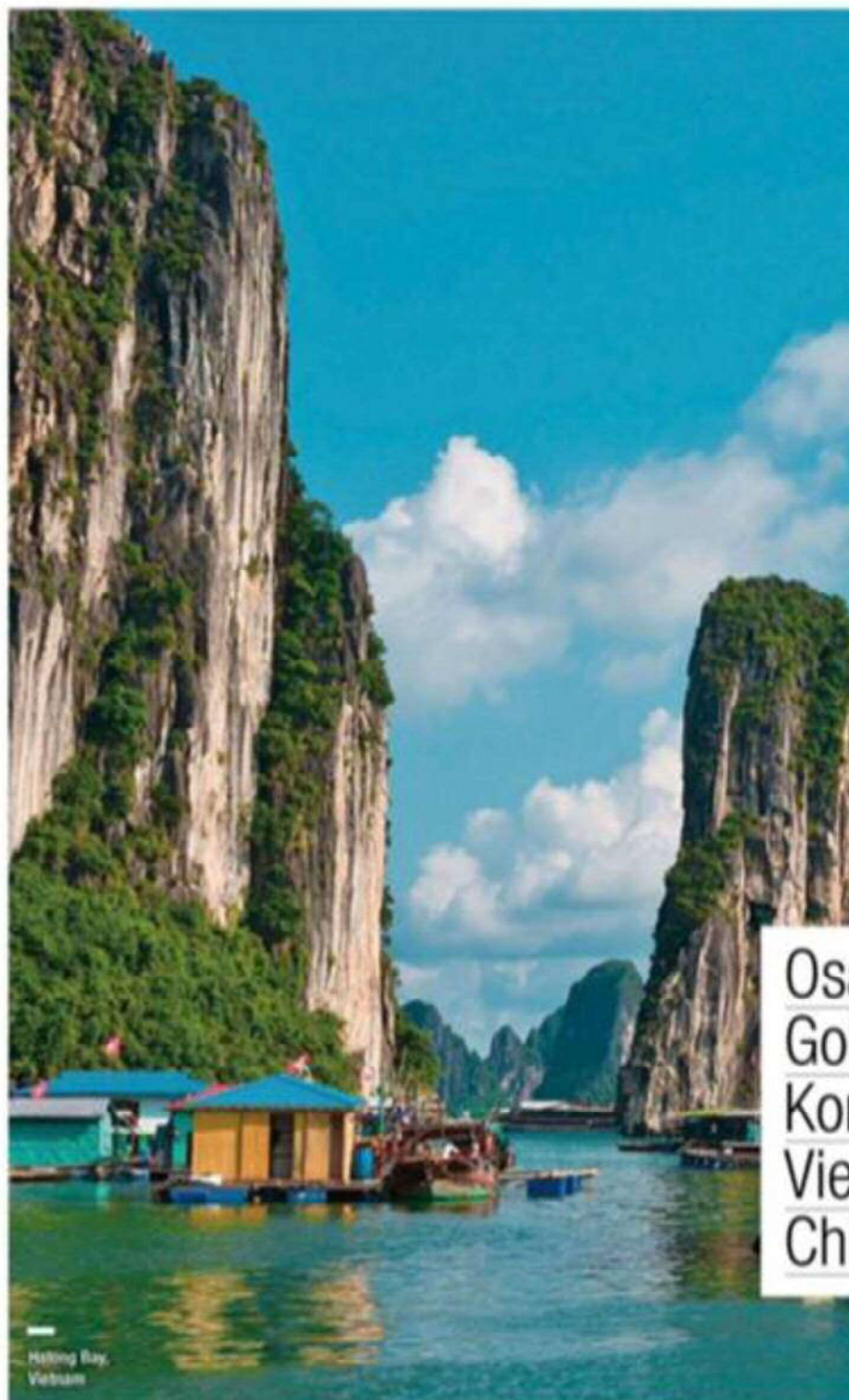
Marvel at the **city skyline** from Guangzhou's highest outdoor bar at the new Park Hyatt **p.48**

Introduce gamifying as a way of **reducing the amount of alcohol** consumed at events **p.61**

Get a top **English Premier League** club to host an **incentive soccer tournament** for groups **p.58**

Ask chefs to create **quirky turndown gifts** like 'edible cutlery' and 'books' with fruit inside **p.61**

Explore >> Destination features, Let's Meet in... & Take 5



Vietnam's aviation
market is one
of the top

10

fastest-growing in
the world



China's hotel industry is
set to be worth US\$

100

billion in the next decade

Osaka	p.26
Gold Coast	p.28
Korea	p.30
Vietnam	p.36
China	p.44

Let's meet in...

Osaka

Groups will be fascinated by the quirkier side to Japan's second city, but Osaka is also aspiring to be the nation's 'Silicon Valley' by attracting tech start-ups. **Marisa Cannon** reports



USPs

Osaka's downtown Dotonburi district offers groups

the sort of experience that only Japan can offer; home to quirky souvenir touts, street stalls serving deep-fried treats and a seafood restaurant with a giant plastic crab clawing its way up the signage. It's also a shopper's paradise, where assistants appear to be competing for funkiest window display along the trendy Shinsaibashi shopping arcade. Shinsaibashi is famous for shops offering premium Japanese confectionery, clothing, accessories and local beauty products popular with Asian tourists, while nearby in Tachibana-dori, Orange Street is extolled by fashionistas for its collection of independent brands and luxury furniture outlets.

Aspiring to be Japan's Silicon Valley, Osaka has positioned itself as a start-up hub where entrepreneurs are welcomed with open arms. Foreign small and medium-sized enterprises keen on establishing in the city can avail of subsidies on a portion of their investment. Retail space at Grand Front Osaka in Umeda (the area surrounding Osaka Station) has been earmarked for entrepreneurial businesses, housing shops and show rooms that take on a theme of innovation. Groups can host events in parts of Grand Front Osaka, such as at the South Building Terrace Garden opposite Osaka Station or on the ground floor Plaza, where automobile and other launches are often held.



Venues

Osaka International Convention Centre

Centre - Known locally as the Grand Cube, the 12-floor facility is a regular choice for medical conferences. Venues include a circular conference room, event hall and plaza with ramps used during auto launches.

Ritz-Carlton Osaka - The Lobby Lounge hosts daily Afternoon Tea in a European-style tearoom with armchairs and live piano and flute. Dior recently hosted afternoon tea for clients in the lounge, which can accommodate 100 standing.

Hilton Osaka - Located in the heart of Umeda, the hotel unveiled 288 renovated guest rooms in 2014, offering modern and updated Japanese touches to the décor and furnishings. The hotel has 10 banquet rooms, a spacious lobby and glass room for cocktails. Five restaurants can be booked out for events.

Billboard Live Osaka - Located in the basement of Herbis Plaza department store, the bar-cum-theatre can be hired for use during visiting shows as well as a host venue for a company's own entertainment. The space can accommodate around 100 for a sit-down meal directly in front of the main stage, with high tables set up for drinks and snacks in the back of venue.



Connections

Kansai International Airport is a hub for Japan Airlines, All Nippon Airways and Peach, Japan's largest low-cost carrier. Kansai is currently Japan's busiest airport for foreign arrivals thanks to the large number of budget airlines it hosts, alternating with Tokyo's Narita airport for the top slot every few years. The airport provides direct services to 74 cities in 24 countries and regions and is accessible by train to downtown Osaka in 30 minutes. Osaka is also served by Shinkansen (bullet trains) from Tokyo, Nagoya, Kyoto and Sanyo. An hour's train journey from Osaka is the Unesco site of Nara, famed for its giant Buddha, lush parkland and tame, freely wandering deer.



Excursions

River cruises - Groups can take cruises down the Toribori River, which runs through the southern region of Dotonburi. Night cruises will regale groups of up to 20 with bright lights of the electronic and mechanical displays stationed along the canal, including the famous 'Glico man' billboard.

Helicopter tours - Osaka has several operators offering 10-20 minute tours of the city by day or night. From 3,000 metres up, groups of three to five can enjoy Osaka sights including Japan's tallest building, the Umeda Sky Building, Osaka Castle, Shitenno-ji temple, Universal Studios and the Kyocera Dome baseball stadium.


 Search

Search China Venues

Mix 中国会议策划目录



Sign in / Register

Subscribe

Home | Bulletin | Destinations | Venues | Ideas | Case studies | Opinion | Expertise | Show off



Home > **DESTINATIONS** > Let's meet in... Osaka

Share



Let's meet in... Osaka

Groups will be fascinated by the quirkier side to Japan's second city, but Osaka is also aspiring to be the nation's 'Silicon Valley' by attracting tech start-ups. Marisa Cannon reports

4 Feb 2016



USPs

Osaka's downtown Dotonburi district offers groups the sort of experience that only Japan can offer; home to quirky souvenir touts, street stalls serving deep-fried treats and a seafood restaurant with a giant plastic crab clawing its way up the signage. It's also a shopper's paradise, where assistants appear to be competing for funkier window display along the trendy Shinsaibashi shopping arcade. Shinsaibashi is famous for shops offering premium Japanese confectionary, clothing, accessories and local beauty products popular with Asian tourists, while nearby in Tachibana-dori, Orange Street is extolled by fashionistas for its collection of independent brands and luxury furniture outlets.

Aspiring to be Japan's Silicon Valley, Osaka has positioned itself as a start-up hub where entrepreneurs are welcomed with open arms. Foreign small and medium-sized enterprises keen on establishing in the city can avail of subsidies on a portion of their investment. Retail space at Grand Front Osaka in Umeda (the area surrounding Osaka

More **DESTINATIONS** articles

- **Let's meet in... Osaka**
4 Feb 2016
- **In pole position**
29 Jan 2016
- **Hangzhou update: hotels, ideas for event planners**
8 Jan 2016
- **Manila's bay watch**
21 Dec 2015
- **10 Adelaide delights**
8 Dec 2015
- **Let's meet in... Jeju**
7 Dec 2015

MORE



Station) has been earmarked for entrepreneurial businesses, housing shops and show rooms that take on a theme of innovation. Groups can host events in parts of Grand Front Osaka, such as at the South Building Terrace Garden opposite Osaka Station or on the ground floor Plaza, where automobile and other launches are often held.

Venues

Osaka International Convention Centre - Known locally as the Grand Cube, the 12-floor facility is a regular choice for medical conferences. Venues include a circular conference room, event hall and plaza with ramps used during auto launches.

Ritz-Carlton Osaka - The Lobby Lounge hosts daily Afternoon Tea in a European-style tearoom with armchairs and live piano and flute. Dior recently hosted afternoon tea for clients in the lounge, which can accommodate 100 standing.

Hilton Osaka - Located in the heart of Umeda, the hotel unveiled 288 renovated guest rooms in 2014, offering modern and updated Japanese touches to the décor and furnishings. The hotel has 10 banquet rooms, a spacious lobby and glass room for cocktails. Five restaurants can be booked out for events.

Billboard Live Osaka - Located in the basement of Herbis Plaza department store, the bar-cum-theatre can be hired for use during visiting shows as well as a host venue for a company's own entertainment. The space can accommodate around 100 for a sit-down meal directly in front of the main stage, with high tables set up for drinks and snacks in the back of venue.

Connections

Kansai International Airport is a hub for Japan Airlines, All Nippon Airways and Peach, Japan's largest low-cost carrier. Kansai is currently Japan's busiest airport for foreign arrivals thanks to the large number of budget airlines it hosts, alternating with Tokyo's Narita airport for the top slot every few years. The airport provides direct services to 74 cities in 24 countries and regions and is accessible by train to downtown Osaka in 30 minutes. Osaka is also served by Shinkansen (bullet trains) from Tokyo, Nagoya, Kyoto and Sanyo. An hour's train journey from Osaka is the Unesco site of Nara, famed for its giant Buddha, lush parkland and tame, freely wandering deer.

Excursions

River cruises - Groups can take cruises down the Tomitori River, which runs through the southern region of Dotonburi. Night cruises will regale groups of up to 20 with bright lights of the electronic and mechanical displays stationed along the canal, including the famous "Glico man" billboard.

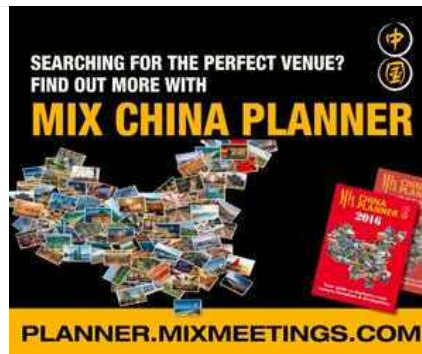
Helicopter tours - Osaka has several operators offering 10-20 minute tours of the city by day or night. From 3,000 metres up, groups of three to five can enjoy Osaka sights including Japan's tallest building, the Umeda Sky Building, Osaka Castle, Shitenno-ji temple, Universal Studios and the Kyocera Dome baseball stadium.

Tags :

Osaka

[LEAVE A COMMENT](#)

0 Comments



大阪で会いましょう

参加者は、日本第 2 の都市・大阪が持つ奇抜な顔に目を奪われるだろう。しかし、この都市には技術系スタートアップ企業を集め、日本の「シリコンバレー」たらしめる野心家としての側面もあるのだ。

(記事：マリーサ・キャノン)

USP(ユニークセリングポジション=唯一無二のセールスポイント)

大阪の繁華街・道頓堀では、日本ならではの体験ができる。派手な土産物売る客引き、揚げ物の露店、プラスチック製の巨大蟹が看板をよじ登るシーフードレストラン、道頓堀はこれらのメッカだ。道頓堀は買い物天国でもある。おしゃれな心斎橋ショッピングアーケード沿いに並ぶ店々は、競い合うかのようにウィンドウディスプレイを飾り立てている。心斎橋は、アジアからの観光客に人気の高級和菓子店、洋服、アクセサリ、地元コスメショップなどで良く知られる。また心斎橋からほど近い立花通り(オレンジストリート)は、独立系ブランドと高級家具のアウトレット店でファッショニスタ達の熱い視線を集めている。

日本のシリコンバレーたらしめんと執念を燃やす大阪は、自らをスタートアップ企業のハブと定義し、起業家への厚遇を用意している。大阪への進出を希望する海外中小企業に対しては、出資の一部を助成金で補助する。梅田(大阪駅周辺地域)のグランフロント大阪のショッピングエリアは、そもそも起業家向けのスペースとして計画されたものであり、イノベーションをテーマとするショップやショールームを収容することを目指して開設された。参加者は、グランフロント大阪の施設でイベントを催すことができる。例えば、大阪駅向いの南館テラスガーデンや、新車展示会などが頻繁に催されている一階広場を利用することができるだろう。

会場

大阪国際会議場-大阪ではグランキューブの愛称で親しまれており、12階建施設で、医学会議の定番会場となっている。円形会議場、イベントホール、新車発表会時用のスロープ付きの広場を備える。

リッツカールトン大阪-ザ・ロビーラウンジでは、ヨーロッパスタイルの喫茶室で、肘掛け椅子にピアノとフルート演奏付きのアフタヌーンティーを毎日楽しむことができる。先ごろ、Dior は顧客を招いてこのザ・ラウンジでアフタヌーンティーを催した。ザ・ラウンジには、立食形式で 100 人の収容が可能である。

ヒルトン大阪・梅田の中心に位置するホテル。2014 年に公開された 288 室の改装客室には、

装飾や家具にモダンで新しい和のテイストが見られる。宴会場 10 室、ゆったりとしたロビー、カクテルタイム用のガラスの部屋がある。イベント時には、5 つのレストランからケーキタリングが可能。

ビルボードライブ大阪・ハービス Plaza デパートの地階に位置するバー付きシアターである。貸し切りでショーを楽しむこともできるし、ここで企業が独自にイベントを開催することも可能だ。ビルボードライブ大阪は、着席で約 100 名を収容することができる。着席用の席はメインステージの正面だ。また後方の立食用のテーブルでドリンクと軽食を楽しむこともできる。

アクセス

関西国際空港は、日本航空、全日空、ピーチ航空(日本最大の格安航空会社)が就航するハブ空港である。関西国際空港は、現在、海外からの到着便が最も多い空港となった。これは関西国際空港が多くの格安航空会社を受け入れたためである。このトップの座は、東京の成田国際空港との間で 2〜3 年ごとに入れ替わっている。関西国際空港からは 24 の国・地域の 74 都市へ直行便が就航しており、大阪の繁華街へのアクセスは電車で 30 分だ。また大阪へは、東京、名古屋、京都、山陽地方から新幹線(高速鉄道)が乗り入れている。ユネスコにより世界遺産に登録された奈良へは、大阪から電車で 1 時間で到着する。奈良の名物は、大仏、緑にあふれた公園、そして公園内を自由に歩き回る人慣れした鹿である。

ツアー

リバークルーズ参加者は、とんぼりリバークルーズで道頓堀南部の川下りを楽しむことができる。ナイトクルーズでは、最大で 20 団体を収容する。川岸には電子・機械的に制御されたネオン広告が輝き、その中には有名な「グリコ」の看板も見ることができる。

ヘリコプターツアー大阪では、数社のツアー会社が昼間または夜間のヘリコプターツアーを提供している(10〜20 分間)。ツアーは一度に 3〜5 団体に対応し、3,000 メートルの上空から大阪の光景を楽しむことができる。例えば、日本で最も高い建造物である梅田スカイビルや、大阪城、四天王寺、ユニバーサルスタジオ、京セラドーム(球場)などを眺めることができる。



Search China Venues

Mix 中国会议策划目录

[Sign in / Register](#)

[Subscribe](#)

[Home](#) |
 [Bulletin](#) |
 [Destinations](#) |
 [Venues](#) |
 [Ideas](#) |
 [Case studies](#) |
 [Opinion](#) |
 [Expertise](#) |
 [Show off](#)



Home > **BULLETIN** > Osaka hopes start-up support lays ground for meetings growth

Share



Osaka hopes start-up support lays ground for meetings growth

Japan's second city sees meetings and conferences as a spin-off from 'knowledge hub' initiatives, writes Marisa Cannon

14 Dec 2015



Osaka City Government is positioning itself as a hub for start-ups with initiatives being rolled out across Umeda, the district around JR Osaka Station, to attract new investment. It is hoped meetings and conferences will be generated to further benefit the Kansai region of Japan.

Several tax incentives and subsidies are on offer to foreign businesses and small- to medium-sized enterprises dedicated to renewable energy and biomedical science. Businesses opening in the designated region of the Kansai Innovation Comprehensive Global Strategic Special Zones will be eligible for national support programmes offering up to 100 per cent tax reduction within the first five years, while foreign businesses can enjoy subsidies of up to US\$800,000 on housing and building leases.

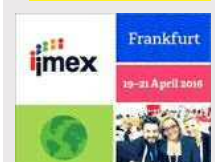
The initiatives follow the first phase of the Umeda town development project, which was completed in April 2013 in order to revitalise the area and promote it as a "knowledge capital". To welcome start-ups that promote knowledge exchange and innovation, Umeda is offering subsidised office space, venues and showrooms.

Umeda's Congres Convention Center has already been attracting medical and pharmaceutical shows with the venue hosting an annual average of 200 meetings. The centre has been chosen to host Mipim, Japan's largest real estate

More BULLETIN articles

- **Flight Centre acquires Maya Events**
15 Feb 2016
- **Singapore Expo reaches new high in wi-fi power**
11 Feb 2016
- **Taiwan eases visa process for conference and expo visitors**
5 Feb 2016
- **'Ambassadors' secure Dubai record number of congresses**
3 Feb 2016
- **Emirates set to launch non-stop route to Auckland**
2 Feb 2016
- **Coex opens Muslim prayer room**
1 Feb 2016

[MORE](#)



event, which is due to attract over 20,000 attendees from 80 countries from September 8-9, 2016. Osaka also hosted more than 6,000 delegates for Sibos 2012, a conference of banking and finance technology specialists.

Phase 2 of the Umeda development project is under way and due for completion in 2023. There will be a 17-hectare urban park and an underground extension of the JR Tokaido to link the city centre with Kansai International Airport.

Tags :

Japan

Osaka

[LEAVE A COMMENT](#)

0 Comments



大阪は、スタートアップ企業の支援が、会議招致の成長の基盤となることを望んでいる

日本第 2 の都市は、会議・カンファレンスを「ナレッジハブ」構想が生む副産物と見なしている(記事：マリーサ・キャノン)。

2015 年 12 月 14 日

大阪市は、大阪をスタートアップ起業のハブと位置付け、新たな投資を引き付けるため、複数の構想を梅田(JR 大阪駅周辺地域)で展開している。日本の関西地域にさらなる利益を引き込むため、会議・カンファレンスの招致が望まれている。

再生可能エネルギーおよびバイオメディカル分野専門とする海外企業および中小企業を対象としたいくつかの減免税措置、助成金が用意されている。関西イノベーション国際戦略総合特区に指定された地域で事業を行う企業は、当初 5 年間最大 100 パーセントの減税を定めた国の支援プログラムの対象となる。また、海外企業は、住宅・建物の賃貸借に最大 800,000 米ドルの助成を受けることができる。

本構想は、2013 年 4 月に完了した梅田地区開発計画第 1 期に続くもので、地域を再生し「ナレッジキャピタル」として知らしめること目的としている。ナレッジエクスチェンジとイノベーションを促進するスタートアップ企業の進出を歓迎するため、梅田では、オフィススペース、会場、ショールームに助成金を支給している。

すでに梅田のコングレコンベンションセンターは、医学製薬分野の会議が数多く開かれてきた。この会場で開催される会議は、年間平均 200 件だ。同センターは、Mipim(日本最大の不動産イベント)の会場にも決定している。Mipim は 2016 年 9 月 8～9 日の開催を予定し、80 カ国から 20,000 人以上の出席が見込まれている。さらに大阪は、Sibos 2012(銀行業務・金融技術専門家会議)の参加者 6,000 人以上を迎えた実績もある。

梅田開発計画は現在第 2 期が進行中で、計画の完了は 2023 年を予定している。計画完了時には、17 ヘクタールの都市公園が造成される。また、JR 東海道線の地下化・新駅開設により、大阪中心部と関西国際空港を直接つなげる予定だ。



TURN YOUR EVENT INTO
A REWARDING EXPERIENCE

FIND OUT MORE

Home | News | Venue Focus | Insight | Case Studies | Itinerary | Promoted

Search

Venues

Suzhou International Expo Center • The Venetian Macao • JW Marriott Hotel Shanghai Tomorrow Square

Destinations

Bali Thailand

Home > Destination (New) > Destination Features > 48 hours in... Osaka

48 hours in... Osaka



Like 4 Tweet G+1 0 in Share 1

Experience ancient and modern Japan in this food-centric metropolis

By David Blecken 25 January 2016

Day 1

9am It may not be immediately clear at ground level, but Osaka is a city of waterways. Starting with a helicopter ride (Ogawa Air is one provider) will give delegates a feel for this intriguing place.

10am Kuromon Ichiba Market is well worth an early visit to get a sense of why Osaka came to be known as "the nation's kitchen" during the Edo period. It's also a great place for a casual lunch.

1pm Doguya-suji is the perfect place to stock up on kitchen utensils including Sakai knives. You can also try your hand at making plastic sushi often on display at local eateries. Design Pocket takes reservations two months in advance.

3pm Next to Doguya-suji is Nipponbashi, Osaka's centre of pop and otaku culture. Find quirky souvenirs, or simply explore and be amused.

6pm Wherever you are in Osaka, you will never be short of exciting dinner options. Dotombori dates back to the 1600s, when the Shogunate designated it as the city's entertainment district. Here you'll find an endless expanse of eateries and bars, from takoyaki octopus balls to the most refined kaiseki dining. A modern alternative is the Grand Front Osaka, a commercial complex in the heart of Umeda open until 4am.

Day 2

9am Built in the 16th century, Osaka Castle is an arresting building with generous grounds for a pleasant morning stroll or jog. The park is a joy all year round, with around 600 cherry trees and 95 kinds of Japanese apricot flowers.

11am The Yamamoto Noh Theater is worth a visit not only for traditional performances, but for its modern Japanese interior design. It can also be used as a venue for meetings and special events.

1pm Head to the Tenjinbashi-suji Shotengai—the longest shopping alley in Japan—for shopping and lunch. More unique shops can be found in Nakazaki-cho, a few minutes' walk from Umeda.

3pm A quiet stroll through the gardens atop the JR Station City offers a respite from the hustle and bustle below. Later in the afternoon, a prime place to watch the sunset is the Umeda Sky Building, which is worth a visit for its unusual architecture.

6pm Journey along Osaka's waterways either on foot or on a traditional yakatabune boat from Yodoyabashi to Dotombori. The riverside also has a good variety of restaurants. For after-dinner drinks, Sankyubashi Street is packed with venues serving Japanese craft beers.

Main image: Kuromon Ichiba Market

Destination

Osaka

Related Articles

- ICCA and MCI launch Global Destination Sustainability Index
- New executive appointments at CWT
- Thailand tops latest Pacific World Index
- Ritz-Carlton appoints general manager in Japan
- Readers' Choice: Best City for Business Events

Related Venues



Regal Airport Hotel, Meeting and Conference Centre



Cityplaza Osaka



Hotel Claiton Shin Osaka



Hotel Osaka Castle



International House Osaka Hotel



The Westin Osaka



cei Special Report

Most Read Articles

- New executive appointments at CWT
- ICCA and MCI launch Global Destination Sustainability Index
- Sustainable events need to be smarter
- George P. Johnson appoints MD in Singapore
- Thailand tops latest Pacific World Index
- AccorHotels' Sofitel brand to expand in Southeast Asia
- 48 hours in... Osaka

大阪で過ごす 48 時間

(記事：デビッド・ブレッケン)

2016 年 1 月 25 日

1 日目

午前 9 時

地上にいるとなかなかピンとこないかもしれないが、大阪は水路の都である。最初にヘリコプターの遊覧飛行(小川航空などが提供)を使えば、参加者に大阪の面白さを掴んでもらえるだろう。

午前 10 時

黒門市場には早起きしても行くべきだ。江戸時代、大阪が「天下の台所」とされた理由が分かるだろう。黒門市場は、カジュアルなランチにも絶好の場所だ。

午後 1 時

道具屋筋に行けば、台所用品は何でも揃う。堺包丁もここで手に入る。また、実際に寿司の食品サンプル(地元のレストランのウィンドーでよく見かける)作りを体験することもできる。デザインポケットでは、2 ヶ月前から予約を受け付けている。

午後 3 時

道具屋筋の隣は、大阪におけるポップとオタク分化のメッカ・日本橋だ。変わったお土産を探してもよいし、目的なくぶらついていても楽しい。

午後 6 時

大阪のどこにしようとも、刺激的なディナーの選択肢は尽きない。道頓堀の起源は 1600 年代に遡る。当時の将軍はここを都市の歓楽街と呼んだ。ここで、たこ焼きから最高級懐石料理に至る、レストランとバーの無尽蔵の連なりを目にするだろう。現代風のチョイスならグランフロント大阪だ。グランフロント大阪は梅田の中心に位置する商業複合施設であり、午前 4 時までオープンしている。

2 日目

午前 9 時

16 世紀築城の大阪城は緑濃い敷地に建つ印象的な城だ。朝の散歩やジョギングに、気持ちの良い時間を過ごせるだろう。大阪城公園は、桜約 600 本、梅 95 種類を擁し、年間を通じ

て楽しめる場所だ。

午前 11 時

山本能楽堂は、伝統芸能の鑑賞だけでなく、和モダンのインテリアデザインを楽しむ目的でも訪れる価値のある場所だ。この能楽堂は、会議や特別なイベント用会場として使用することもできる。

午後 1 時

ショッピングとランチのため、日本で最も長い商店街である天神橋筋商店街に向かう。梅田から 2〜3 分足を伸ばせば、中崎町でさらにユニークな店を見つけることができるだろう。

午後 3 時

地上の雑踏を一時離れ、大阪ステーションシティの屋上庭園で静かな散歩を楽しむ。午後遅く、日没を眺めるなら梅田スカイビルが第一候補だ。梅田スカイビルは、個性的な建築物としても見る価値がある。

午後 6 時

大阪の水路沿いを淀屋橋から道頓堀へ移動。徒歩、あるいは屋形船で。川辺にもバラエティ豊富に様々なレストランがある。ディナーの後のアルコールなら、三休橋筋に日本の地ビールを出す店が目白押しだ。

メイン画像：黒門市場

THE EVOLUTION OF BUSINESS EVENTS

M&C/ASIA

MEETINGS AND CONVENTIONS

JANUARY-FEBRUARY 2016

mcmag-asia.com

 **NORTHSTAR**
TRAVEL GROUP

+ PLANNER'S PORTFOLIO:

IDEAS FOR FUN
BREAKS

ENGAGE
ATTENDEES

UNDERSTANDING
UBER



Apps
**IDEAS
THAT
INNOVATE**

**TOP 25
COST-
CUTTING
TIPS**

**LESS FUSS, MORE
IMPACT FOR
YOUR EVENTS**

TOP10 apps to revitalise
and transform
events

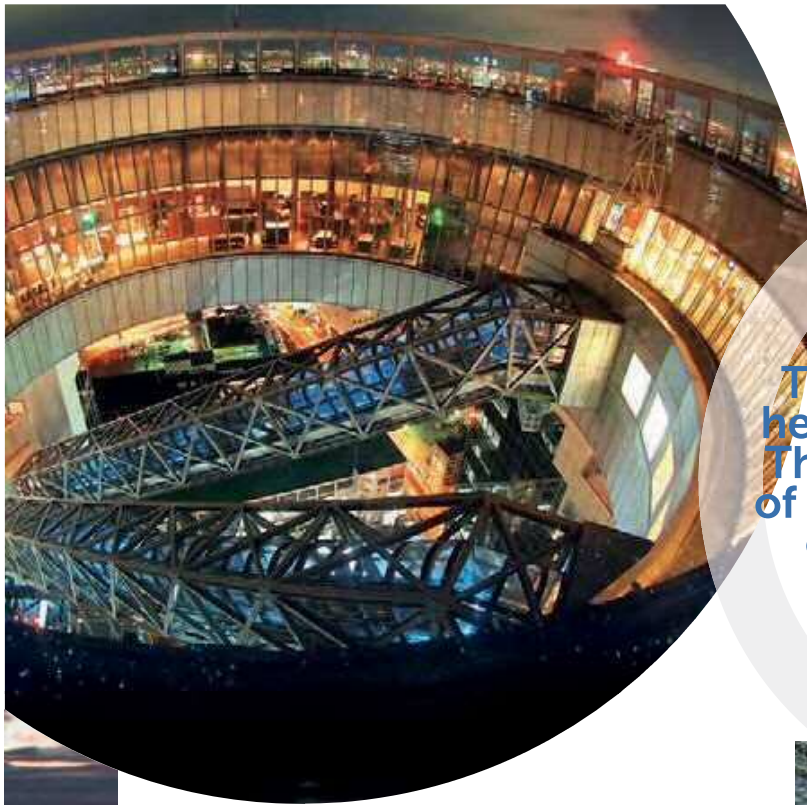




Onward Osaka

KNOWN AS THE CITY OF BRIGHT LIGHTS AND THE HUB FOR TRADE AND COMMERCE, OSAKA CHANNELS ITS INNOVATIVE SPIRIT INTO BOLD PLANS FOR MICE IN THE COMING YEARS

Words SANJAY SURANA



"Osaka has the biggest SMEs sector in Japan. There is a lot of energy here, lots of innovation... There is a tangible sense of excitement—a positive, can-do spirit among city entrepreneurs."

**MASASAKI YOSHIKAWA,
DIRECTOR GENERAL,
OSAKA INNOVATION HUB**

Arts, entertainment, food and fashion beckon in Minami, the south district of Osaka, making it the go-to locale for tourists and foodies. For business, Kita is the district to watch. Umeda is one of Kita's blue-eyed boys in the business and retail arena, and it is currently undergoing rapid change.

Umeda enjoys a strategic location and role as the transportation heart of the city, as it is home to Osaka Station, the largest station in Western Japan, with 2.5 million passengers passing through it every day. What's more, Umeda has wrapped up the first chapter of an ambitious infrastructure project while preparing for the second one. The Umekita development completed Phase 1 in 2013, building on former rail depot yards to create offices, retail and convention spaces, hotels, and apartments.

Inspired by the theme of knowledge, it was devised through the cooperation and commitment of four sometimes-competing organisations – JR West Railway, Hankyu Corporation, Hanshin Electric Railway, and the newly established Grand Front Osaka

Opp: A panoramic view from Umeda Sky Building. From top clockwise: A floating garden at the top of the Sky Building; JR Osaka Station's expansive space; Entertainment at InterContinental Osaka's Bar Adee.



TMO – as a place for businesses to come together and exchange information. The development included large-scale renovation and a new building for Osaka Station, purpose-built entertainment, meeting and retail facilities, and the jewel of them all, the Grand Front Osaka tower, a multipurpose complex with a convention centre, retail and meeting spaces, innovation centres, and the stylish InterContinental Hotel.

Thanks to the thoughtful execution of Phase 1, planners are now spoilt for choice for venues in Umekita. "Internationally, people know Tokyo and Yokohama for business meetings, Kyoto for culture meetings. Osaka is not so well known," said Hironobu

Matsuio, a manager at Osaka International Convention Centre (OICC). Before Umekita's Phase 1 development, OICC, situated about a 15-minute car ride from Osaka Station, was the de facto choice for large-scale events in the city.

The new Umekita development has now added extra capacity and lustre to the city, with a range of venues to accommodate any type of event. These include the Knowledge Capital Congrès Convention Centre (seating capacity 1,750), Herbis Hall (1,000), Knowledge Capital Theatre (381), InterContinental Hotel (272), Hotel New Hankyu Osaka (922), and The Ritz-Carlton hotel (292).

Grand Front Osaka has a Knowledge Plaza in the central atrium that can host 100, a beautifully open space, while Billboard Live in the Herbis Complex (the complex has extensive medical facilities, tying in with the city's reputation for medical innovation), can seat 350 and stage live shows or 3-D films.

Osaka Station has eight plazas, all featuring clocks. Each can accommodate hundreds of people and ranges from the eight-storey-high Atrium Plaza and the Toki-no-hiroba Plaza that has staged film festival red carpets, to the breezy, airy Yawaragi-no-niwa Plaza, verdant with maple, cherry blossom, and azaleas during warmer months. The Umeda 1-1 building, part of Umekita's Phase 2, will fully open in 2022 and will feature a 4,000sqm convention centre.

Masasaki Yoshikawa, director general of the business incubator Osaka Innovation Hub, shares that the city has a palpable desire to evolve. "Osaka has the biggest SMEs sector in Japan. There is a lot of energy here, lots of innovation... The government wants to help local businesses; we, for instance, are 100 percent funded by the city." There is a tangible sense of excitement here, a positive, can-do spirit among city entrepreneurs. 



UMEKITA – PHASE 2

Innovation and nature will be the themes of the next stage, which will officially kick off in 2016. Construction work will begin on an empty **16.2ha site next to Phase 1**, steps from Osaka Station. Four hectares of the site will be given over to green space, while targeted industries will include healthcare, environmental, internet-related companies, strategic economic development and robotics. A **new high-speed train line** will connect the development directly to Kansai International Airport.

For more information, contact umeda-connect@urban-ii.or.jp



Left from top: Buzzing events at Umekita Plaza; InterContinental Osaka's NOKA private room; An elegant ambience at The Ritz-Carlton Osaka; Herbis Complex offers a variety of events space



進歩する大阪

華やかな都市として、また通商ハブ(大阪チャネル)として知られる大阪

今後数年を見据えた力強い MICE 関連計画には、大阪の革新精神が込められている
(記事：サンジェイ・スーラナ)

「大阪は、日本最大の SME(中小企業)セクターを擁する街です。多大なエネルギー、多大なイノベーション…手に触れることのできる興奮感がここにあります。大阪の起業家には、前向きな、成せばなる精神があるのです。」

大阪イノベーションハブ推進責任者吉川正晃

芸術、エンターテインメント、食、ファッションが手招きする街、ミナミ。ミナミは大阪の南側に位置し、観光客や食い道楽者に人気の街だ。対してキタは、企業にとって目の離せない街となっている。企業や小売り業者が注目する地区の一つである梅田は、現在、急速な変化の下にある。

大阪駅を擁する梅田は、今や大阪の要衝であり、輸送の中核となっている。大阪駅は西日本最大の駅であり、一日の乗降客数は 250 万人を数える。これに留まらず、梅田は野心的なインフラプロジェクトの第 1 期を完成させ、第 2 期の準備に取り掛かっている。うめきた 1 期は貨物駅跡地を利用したもので、2013 年にオフィス、ショッピングエリア、会議場、ホテル、マンションが完成している。

うめきた構想は、時に競合関係にもなる 4 社(JR 西日本、阪急電鉄、阪神電気鉄道、新たに設立されたグランフロント大阪 TMO)がナリッジというテーマに賛同し、協力・関与しながら、企業が集い情報を交換するための場所として案出したものだ。開発には大阪駅の大規模改修とビルの新設、特設エンターテインメント施設、会議場などが含まれるが、中でも特筆すべきはグランフロント大阪タワーである。グランフロント大阪タワーは多目的複合施設であり、コンベンションセンター、会議場、イノベーションセンター、スタイリッシュなインターコンチネンタルホテルを備える。

うめきた 1 期の行き届いた計画の結果、今、プランナー達はうめきたでの会場選びに嬉しい悲鳴を上げているところだ。「世界的には、ビジネス会議では東京、横浜が、文化的な会議では京都が知られています。大阪の知名度はさほど高くありません。」と大阪国際会議場(OICC)マネージャーの松尾浩伸氏は言う。うめきた 1 期開発前は、大阪での大規模イベントには大阪駅から車で 15 分ほどの OICC が現実的な選択肢であった。

うめきた開発により、あらゆる種類のイベントに対応できる会場群が揃い、この街はキャパシティだけでなく、その輝きも一層増した。例えば、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(収容人数 1,750 人)、ハービスホール(1,000 人)、ナレッジキャピタルシアター(381 人)、インターコンチネンタルホテル(272 人)、大阪新阪急ホテル(922 人)、リッツカールトンホテル(292 人)などである。

グランフロント大阪の中央アトリウム広場にはナレッジプラザがあり、美しいオープンスペースに 100 人を収容することが可能だ。また、複合施設ハービス(この複合施設は大規模な医療施設を擁し、医学イノベーション分野における大阪の評価を高めている)のビルボードライブの着席数は 350 席、ライブショーや 3D フィルム上映が可能である。

大阪駅には 8 つの広場があり、いずれも特徴的な時計が設置されている。各広場は数百人の収容能力がある。例えば、8 層吹き抜けのアトリウム広場、映画祭でレッドカーペット会場となった時空の広場など、また、軽快な解放空間に設置された和らぎの庭では、暖かい季節にカエデ、桜、アザレアなどの緑を楽しむことができる。うめきた 2 期に計画されている梅田 1-1 ビルは 2022 年にグランドオープン予定であり、4,000m² のコンベンションセンターを目玉とする。

ビジネスインキュベーターの大阪イノベーションハブ推進責任者吉川正晃氏は、大阪には進化したいという明白な願望がある、と話してくれた。「大阪は、日本最大の SME(中小企業)セクターを擁する街です。多大なエネルギー、多大なイノベーション…大阪府は地元企業を助けたいと考えています。例えば、我々は資金の 100%を大阪府から受けています。手に触れることのできる興奮感がここにあります。大阪の起業家には、前向きな、成せばなる精神があるのです。」

うめきた 2 期次期のテーマはイノベーションと自然。うめきた 2 期は 2016 年に公式スタートする。建設工事は、1 期に隣接した 16.2 ヘクタールの空き地(大阪駅よりすぐ)から着工する。4 ヘクタール分は緑地に当て、一方で、医療、環境、インターネット関連企業、戦略的な経済開発分野、ロボティクスなどの業種を呼び込む狙いだ。また、新たに高速鉄道を敷設し、開発地区から関西国際空港への直接アクセスを可能にする。

詳細は、umeda-connect@urban-ii.or.jp まで。

(欄外)

表紙：梅田スカイビルからの全景。上から時計回りに：スカイビル最上部の空中庭園、広

大な JR 大阪駅、インターコンチネンタル大阪 Bar Adee のおもてなし空間。

左上より：うめきた広場の喧騒、インターコンチネンタル大阪レストラン Noka の個室、リッツカールトン大阪のエレガントな雰囲気、複合施設ハービスの各種イベントスペース

Japan's Silicon Valley? Osaka hopes hi-tech startups will reverse economic woes

A startup incubator in an Osaka shopping mall lets customers test experimental prototypes such as drones and holograms. Its aim is to stop the city's brain drain

Mark Harris in Osaka

Thursday 31 March 2016 13.51 BST

At first glance, Grand Front Osaka in the heart of Japan's second city looks like any high-end international mall. Fashionistas parade their latest purchases from upscale boutiques, while expensively dishevelled youths cruise endless escalators, coffees in hand.

But amid global retailers such as Muji, Panasonic and Zara nestle dozens of shops with less familiar names: Enellege, Au, and Kinki University Fisheries Restaurant. These are not traditional stores but one-off outlets offering exclusive new products and services still under development.

Shoppers can try smartphone apps while they are being coded, sample the latest energy-efficient gadgets, or even sit down to a meal of the world's first farmed bluefin tuna (a species that has been critically overfished in the wild).

Inside a three-storey space called The Lab are even more experimental prototypes, including drones, holograms and digital shopping assistants. With a wave at a video screen, a virtual silk kimono is overlaid on a floor-to-ceiling image of me, following my every move. If I like it, I can add it to my shopping cart without ever squeezing into a changing room.

It is all part of an ambitious attempt by Osaka to recreate the success of Silicon Valley by harnessing the power of individual consumers as beta testers, not online but in person at plazas and food courts in the city's newest shopping centre.

Japan's economic woes are well-known. Its GDP is lower than it was 20 years ago, a quarter of the population is over 65, and the brightest youngsters tend to flee to Tokyo or elsewhere. From 2013 to 2015, Tokyo gained 10 times as many people aged 25 to 34 as Osaka lost.

Technology giants like Sharp - recently bought by a Taiwan company but still based in Osaka - that used to rule the world now limp along as 'zombie' firms propped up by government cash. A local journalist even wrote a book warning that the city could end up bankrupt and abandoned, like Detroit.

If Osaka's plan works, today's initial crop of startups will grow, flourish and lure young

workers back to the city to start their own businesses. “Startups are just 8.5% of businesses here but they produce almost 40% of new jobs,” says Masaaki Yoshikawa, director general of the Osaka Innovation Hub, a municipally-funded incubator, quoting data from Japan’s Ministry of Economy, Trade and Industry. “And yet Japan has three times fewer startups per capita annually than the UK or US.”

The Lab will be part of a scheme called Knowledge Capital, designed to help new ideas make it to market faster. It starts in offices above the mall named the Knowledge Salon. This members-only co-working space has hot desks, lounges, and meeting rooms for 275 entrepreneurs, each of whom pays a heavily subsidised fee of just 10,000 Yen (around £60) a month.

If a company needs room to grow, it can occupy one of 52 small dedicated offices called Collabo, or even a fully-fledged office suite, all at knock-down rates. There is also a library, accountant and lawyers on site to offer professional advice.

The next step is to move to the Lab in the mall downstairs. This is currently home to about a dozen startups and universities in the process of perfecting new products. Because most startups can’t spare the staff for their booths at the Lab, Osaka provides professional “communicators” to conduct demonstrations, help users and collect feedback on the products.

“The startup scene in Osaka is at an early stage,” says Sifang Lu, a 30-something developer who moved back to Japan recently after a spell in Silicon Valley. “But here, we actually get this help from the city. In San Francisco, they just collect taxes.”

Lu is working on an app called Meet My Dog that allows users to make playdates with other dog owners. “The key difference between Japan and other countries is that software engineers make very little money here,” he says. “They’re treated like labour.”

Despite securing some funding, Lu is not quite ready yet for the ultimate step: a move to one of the two dozen Future Life Showroom storefronts in the mall itself. In fact, none of the startups that began life at Knowledge Capital has yet graduated to a full retail shop, perhaps because the project only began in 2013. In the meantime, the storefronts have been snapped up by established brands like Coca-Cola and Mercedes-Benz happy to find spaces where they can try something new.

One more alternative shop in the showroom is a medicinal herb restaurant run by Rohto, a pharmaceutical company, as part of a vaguely defined “medical check-up” community project. The restaurant grows many of its own vegetables on site under LED lights. Processing, packaging, transporting, storing and preparing fresh fruit and vegetables uses about four times as much energy of growing them in the first place. Japan’s crowded cities are ideal for experimenting with indoor farming.

Osaka’s efforts in innovation have also reached beyond the mall walls. Moff is a watch-like wearable toy that automatically adds light sabre or air guitar sound effects to children’s games. It was developed during a city-supported hackathon in Osaka, then funded on Kickstarter in 2014, and is already in the shops. The only problem for Osaka is that as soon as Moff found success, it moved out of the city.

“The president of Moff took the company and its engineers to Tokyo,” admits Masaaki Yoshikawa. “But we are targeting becoming a gateway city. In the long run, as Osaka becomes a gateway city with more global connections, we would expect them to come back again.”

More sponsored features

Topics

Japan Entrepreneurs Small business Asia Pacific Economic recovery

Save for later Article saved

Reuse this content



The Grand Front Osaka mall is incubating hi-tech startups and using shoppers as real life beta testers—all in an effort to restart the city's ailing economy. Photograph:Mark Harris



People at work in the Knowledge Salon. Photograph: Mark Harris



Vegetables growing in the Osaka Grand Mall. Photograph:Mark Harris

日本のシリコンバレー？大阪はハイテク新興企業に経済再生を託す

大阪のショッピングモールにあるスタートアップインキュベーターでは、顧客にドローンやホログラムなどの実験的プロトタイプを体験させている。その目的は大阪市からの頭脳流出を阻止することだ。

日本第二の都市の中心に位置するグランドフロント大阪は、一見すると他のハイエンドで国際色豊かなショッピングモールと何ら変わりはない。ファッショニスタが高級ブティックの買い物袋を手に闊歩するかたわら、高級品をカジュアルに着崩した若者はコーヒーを手にエスカレーターに乗り、特に目的もなくモールを見て回っている。

だが、無印良品、パナソニック、Zara といった世界的なメーカーに囲まれて肩を寄せ合うのは、エナレッジ、au、近畿大学水産研究所レストランといった馴染みの薄いショップだ。これらは従来の店舗と異なり、開発途上の新製品や新サービスだけを提供する、一回限りの店舗だ。

買い物客はコーディング中のスマホのアプリを試したり、最新の省エネ機器の見本を手にすることができる。世界初の養殖クロマグロ（乱獲により絶滅危惧種に指定された野生生物）を使った食事をゆっくり座って楽しむことさえ可能だ。

ザ・ラボと名付けられた三階建てのスペースの中には、ドローン、ホログラム、デジタルショッピングガイドといった、もっと実験的なプロトタイプが並んでいる。ビデオスクリーンが波打つと、床から天井まで映し出された私のイメージにバーチャルの絹の着物が着せられ、どんな動きをしても脱げることはない。気に入ったら、ショッピングカートに入ればよい。狭い試着室に入る必要などないのだ。

これらはすべて、大阪市の野心的な試みの表れである。個々の顧客の消費力を、オンラインではなく大阪市が誇る最新のショッピングセンターのプラザやフードコートで直に β テスターとして活用することで、シリコンバレーの成功を再現しようというものだ。

日本の経済不振はよく知られている。GDP は 20 年前より低く、人口の四分の一が 65 歳以上、しかも才能のある若者は東京や他の都市に流出する傾向にある。2013 年から 2015 年にかけて、東京が獲得した 25 歳から 24 歳の人口の 10 倍も大阪は失っているのだ。

かつて世界を席巻した大手テクノロジー企業は（最近台湾企業に買収されたが拠点はまだ

大阪にあるシャープなど)、政府の金融支援に支えられた「ゾンビ」企業として低迷状態にあるのが現状だ。事実、大阪在住のあるジャーナリストは書籍の中で、大阪は破綻して見捨てられ、第二のデトロイトとなり得ると警告を発している。

大阪市の計画がうまく運べば、現在集めたスタートアップ企業は順調に成長し、若い働き手を地元と呼び戻し起業を促す格好の材料となるだろう。「スタートアップ企業は大阪市の企業の 8.5%にすぎませんが、新規雇用のほぼ 40%を生み出しています。」日本の経済産業省の統計データを引用してこう話すのは、地方自治体が資金提供するインキュベーター、大阪イノベーションハブの代表理事、吉川正晃氏だ。「とはいえ、日本では国民一人当たりの年間スタートアップ企業はイギリスやアメリカの三分の一にすぎないのです。」

ザ・ラボは、新しいアイデアがより速く市場に出られるよう支援する、ナレッジキャピタルという施設の一環である。ショッピングモールの上階に設けられたナレッジサロンという一連のオフィス施設に始まる。交流を目的としたこの会員制サロンには、ホットデスク、ラウンジ、会議室が完備されており、275 の起業家が利用できる。どの起業家にもかなりの助成金が支給されるため、使用料は月額わずか 10,000 円（およそ 60 ポンド）で済む。

もしも大きな部屋が必要となった場合は、コラボという 52 の小さなオフィススペースの一つを借りるか、完全なオフィススイートを借りることも可能だ。すべてが破格である。また資料室もあり、会計士、弁護士なども常駐しているため、その場で専門的なアドバイスをすることもできる。

次に階下のショッピングモールにあるザ・ラボを見てみよう。現在ここでは、12 のスタートアップ企業や大学が新製品の仕上げにかかっているところだ。スタートアップ企業の大半はザ・ラボに配置できるほどスタッフ数に余裕がないため、大阪市はプロの「コミュニケーター」を派遣し、デモの実施やユーザーの手助け、製品に関するフィードバックの収集を支援している。

「大阪のスタートアップ企業を取り巻く環境はまだ初期の段階です。」こう話すのは、シリコンバレーでしばらく過ごした後に最近日本に戻った 30 代のデベロッパー、シーファン・ルー氏だ。「でもここでは、市が実際にこうした援助を提供してくれます。サンフランシスコではただ税金を集めるだけですけどね。」

現在ルー氏は、愛犬家のユーザー同士に出会いの場を提供する、Meet My Dog というアプリを開発中だ。「日本と他の国が大きく異なる点は、ソフトウェアのエンジニアは日本ではほとんど儲からないということです。」とルー氏は話す。「労働者扱いですからね。」

資金援助はいくつか取りつけているものの、ショッピングモール自体にあるフューチャーライフショールームという 24 の店舗にルー氏が出店するという、最終ステップに向けた用意は整っていない。事実、ナレッジキャピタルで活動を始めたスタートアップ企業の中で、完全な販売店として卒業したものは一つもない。これはおそらく、プロジェクトが 2013 年に開始されたばかりだからだろう。そうこうしているうちに、コカ・コーラやメルセデス・ベンツといった有名ブランドがこれらの店舗に飛びつき、新製品を試す場となってしまった。

このショールームには、製薬会社のロートが運営する薬膳レストランがある。これは、少々意味が曖昧だが、「健康増進」地域プロジェクトの一環だ。このレストランでは、提供する野菜を店舗で LED 栽培している。そもそも新鮮な野菜と果物の処理、梱包、保存、準備は、栽培にかかるエネルギーの 4 倍を必要とする。日本の混雑した都市は、屋内農業の理想的な実験環境なのだ。

大阪市がイノベーションに注ぐ努力は、ショッピングモールの外にも向けられている。Moff は腕時計型のウェアラブル玩具だ。子供のゲームに合わせて自動的にライト・セーバーが点灯したり、ギターの音が奏でられる。同市が支援するハッカソンの期間中に開発され、その後 2014 年に **Kickstarter** で資金調達に成功した。すでに店頭販売もされている。大阪市にとって唯一の問題は、成功するやいなや、Moff が大阪市から拠点を移してしまったことだ。

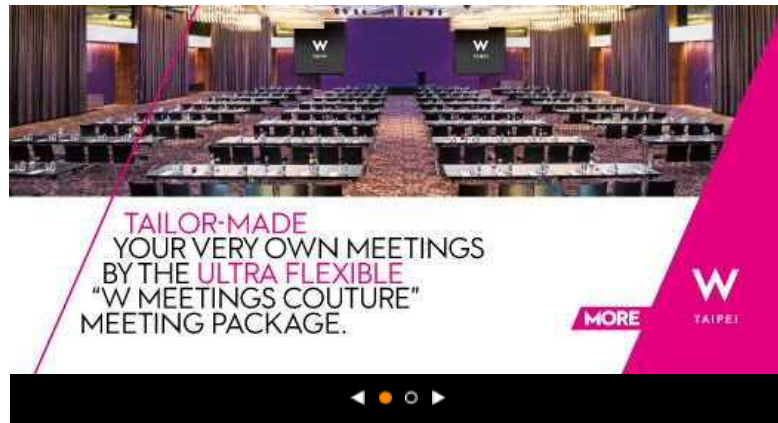
「Moff の社長は会社と技術者を東京に移してしまいました。」吉川正晃氏は認めている。「しかし、私たちの目的は玄関都市になることです。大阪市はより多くのグローバルな接点を持つ玄関都市となるのです。長い目で見れば戻って来てくれると期待しています。」

【キャプション】

グランドフロント大阪モールは、買い物客を実際の β テスターとして利用し、ハイテクスタートアップ企業を育成している。すべては大阪市の低迷する経済を再生させるため。写真：マーク・ハリス

ナレッジサロンで工作中。写真：マーク・ハリス

グランドフロント大阪のモールで栽培されている野菜。写真：マーク・ハリス


 Search

Search China Venues

Mix 中国会议
策划目录


[Sign in / Register](#)
[Subscribe](#)

Home | Bulletin | Destinations | Venues | Ideas | Case studies | Opinion | Expertise | Show off



Home > **DESTINATIONS** > Bright lights, big cities

Share



Bright lights, big cities

One is the capital preparing to host the 2020 Olympics, the other is Japan's second city, which is harnessing the spirit of innovation. Michael Taylor reports from Tokyo and Marisa Cannon from Osaka

30 Mar 2016



Japan is already in the prestige bracket when it comes to meetings and events, but a weakening yen and mounting anticipation for the 2020 Tokyo Olympics are making the country an even more attractive prospect for delegates. The events sector is experiencing promising growth with global DMC Pacific World expanding into the region last year, and a number of international hotel brands setting up shop for the first time, including JW Marriott and Hyatt's boutique brand, Hyatt Centric.

Osaka is also adopting the spirit of renewal as the city is positioned as a start-up hub for tech businesses while more venues and outdoor spaces become available. Nearby Nara serves as a relaxing cultural excursion for visiting delegates, and is easily accessed in a half hour from Osaka Station, while downtown Dotonbori offers an exciting experience of the city's eccentric underbelly.

Michael Taylor looks into Tokyo's new hotels and the Big Sight's Olympic role.

More **DESTINATIONS** articles

- **CSR crusaders**
31 Mar 2016
- **Bright lights, big cities**
30 Mar 2016
- **Chosun ones**
22 Mar 2016
- **Take 5...activities around Gold Coast**
22 Mar 2016
- **Let's meet in... Doha**
22 Mar 2016
- **Let's meet in... Osaka**
4 Feb 2016

[MORE](#)



Tokyo

With four years until the world's attention is drawn to the Olympics, Tokyo's portfolio of hotels and events facilities are getting a makeover, and numerous new venues are being added to the mix.

The Odaiba area, known as Tokyo Bay, will host key events during the 2020 Olympics. The games' media centre will be at Tokyo Big Sight and the venue will also host wrestling, tae kwon do, fencing and the official international party venue.

With a waterfront location, the Hilton Tokyo Odaiba has spectacular views of the Rainbow Bridge, the Tokyo skyline and across the bay with sunsets providing a wondrous backdrop for indoor and outdoor events. Boat excursions can also be arranged from the hotel.

The hotel was previously under the Nikko brand, though Hilton took over management last October. The 453-guest room hotel has 10 F&B outlets, a grand ballroom and numerous small- to medium-sized meeting rooms.

Tokyo Big Sight is divided into three areas: the East Exhibition Hall, the West Exhibition Halls and the Conference Tower, which comprises four inverted pyramids. There are mini-marts, fast-food outlets, cafeterias, a food court, coffee shops, and other mostly informal eateries. The East Exhibition Hall is a three-storey structure with six halls, each one measuring 90 sqm. The three halls on each side of the Galleria can be combined into a 26,010 sqm exhibition space and have mobile roofs that provide daylight. Running between the six halls, the two-storey galleria has a glass roof, moving sidewalks and escalators to facilitate the movement of attendees. The two-tier West Exhibition Hall has four halls surrounding an atrium. Suitable for small-scale exhibitions and events, they all have freight elevators. The eight-storey Conference Tower is the jewel in Tokyo Big Sight's crown. Facilities include a reception hall suitable for hosting parties, shows, and symposia as well as 22 conferences rooms of various sizes.

Other Tokyo choices

Located in Marunouchi, the 150-guest room Tokyo Station Hotel is housed in a grand redbrick building that dates back to 1915. The hotel was renovated in 2012 and has three elegant rooms for medium-sized events and meetings, ranging in size from 180 to 288 sqm. Sit-down dinners and standing buffets can be handled for between 80 and 180 attendees.

Nearby, Courtyard by Marriott Tokyo Station is a more modest alternative. It has two food and beverage outlets, a basic fitness room, and three meeting rooms measuring between 52 and 85 sqm. They can accommodate between 27 and 70 attendees in a theatre, school room or conference style configuration.

One of Tokyo's newer hotels, Andaz Tokyo Toranomon Hills opened in mid-2014. It is housed in Tokyo's second tallest skyscraper and affords spectacular views of the Imperial Palace. The 164-room hotel has five food and beverage outlets, including a rooftop bar with an outdoor terrace, Tokyo's highest free-standing wedding chapel and flexible spaces for holding meetings and events. Other facilities include a spa, indoor swimming pool and fitness centre.

In the Nihonbshi district, the Aman Tokyo is housed in the Otemachi Tower with views of the Imperial Palace grounds. More suitable for intimate events, there is also a boardroom with seating for up to 18, a meeting room seating up to six, and five private dining rooms with city views. Japanese art and cultural performances can also be arranged for groups.

The Prince Gallery Tokyo Kioicho, a Luxury Collection Hotel, will open in July under the management of Starwood's high-end brand. The 250-room hotel will occupy levels 30-36 of the new Tokyo Garden Terrace development and will feature a two-storey sky lobby with sweeping views Akasaka.

A former palace alongside the tower that was once home to the crown prince of Korea and his Japanese bride has been preserved. After World War II it became a hotel and changed names under the Prince group. Today it is known as the Akasaka Prince Classic House.





Glico man's next big race

Japan's second city may have the iconic advertising billboard known as Glico Running Man as its well-loved downtown icon, but innovation is the recent talk of the town. For the local convention and visitors bureau, hi-tech businesses, new infrastructure and venue developments are the cornerstone of the new Osaka.

New developments are centred on Umeda, the district around Osaka City Station, which in its first phase saw the creation of co-working spaces, shopping arcades, meeting venues, five-star hotels and the Capital Congress Convention Centre. Now in its second phase, the project will transform a 16-hectare plot of land into a commercial complex that will house corporates in new business, healthcare and tech, a new railway station, offices and parkland.

Underpinned by the success of the first phase, Umeda has evolved into an incubator for innovative business and knowledge-sharing projects, offering a host of venue options for events in and around the complexes. Outside of Umeda, Osaka is no less impressive in its group incentive offering. Planners looking to organise activities can organise outings to the colourful, southern district of Minami, day trips to nearby Nara and cruises along the city's waterways on open-roofed canal boats.

Umeda

A five minute walk from Osaka City Station, the InterContinental Osaka is popular with families and long-stay travellers thanks to premium residences perched between the hotel's 29th and 32nd floors. The apartments serve as elegant temporary homes as well as venues says director of sales and marketing Bettina Praschinger. "The balcony areas of the residences are increasingly popular with groups for cocktails, and we get a lot of interest for events during the annual fireworks in August thanks to our views."

One of Umeda's newest hotels, the InterContinental has four meeting rooms, an exhibition space and ballroom that offer a suite of event supplies including plasma TVs, projectors, PA systems, portable dance floors and a video conferencing system. The hotel also provides locally inspired experiences for delegates and is able to arrange local speakers at events, offsite teambuilding activities and CSR projects that benefit the local environment and community.

Five-star hospitality aside, several outdoor spaces can be used for events around the Umeda precinct. Shrouded in greenery, both the South Building Terrace Garden on the Grand Front's ninth floor and Umekita Plaza just outside Osaka Station are expansive alfresco spaces suitable for cocktails, theatre screenings or casual meetings. The North Building Terrace Garden is a veritable prairie on a rooftop, where delegates can enjoy lush landscaping alongside views of other lofty structures in the vicinity. A 4,000 sqm space on the north side of the North Building called The Garden is another option for large-scale events that offers respite from the frenetic city outside.

Dotonburi

Though a business destination, Osaka brims with the same kitsch leisure attractions traditionally sought out in the country's capital. In the south, Dotonburi's shopping district is the city's beating heart, defined by a slender canal running through it. An enormous, effigy of a crab on a restaurant's façade characterises the quirky precinct – a mix of ramen cafes overhung by gaudy beer advertisements, street stalls selling breaded seafood and row after row of eccentric clothing stores, wholesale pharmacies and confectioneries.

The "Glico Running Man" billboard is what's most associated with Osaka – an enormous LED-lit athlete featured running against a bright blue track. The billboard was originally installed in 1935 to advertise the Glico brand of candy, and is currently in its sixth, now electronic, iteration. Setting off from Tazamombashi pier, a canal cruise is a leisurely way for groups to take in the elaborate bar and shop signs that decorate the waterway.

Walking west along the canal from Dotonburi, America-Mura is the go-to for those seeking sartorial inspiration. The area got its name from a swathe of American labels that infiltrated the area in the

1980s, though it's now home to local and international boutiques touting vintage wear, skincare products and handmade crafts. Great for an afternoon of retail therapy and picking up off-the-wall souvenirs.



Nara

Home to eight Unesco World Heritage Sites, Nara is a popular day trip with tourists visiting Osaka and nearby Kyoto. The main event in Nara is the Daibutsu, or enormous Great Buddha statue, one of Japan's key attractions along with Mount Fuji and Kyoto's Golden Pavilion. On foot, Nara is charming to wander with most main sights located along the eastern edge of the Nara Koen park including Todai-ji Temple, which houses the Great Buddha and is also the world's largest wooden building. The park is also populated by hundreds of tame, free-roaming deer, which have become a symbol of the city and a natural treasure. Groups can enjoy leisurely walks or rickshaw rides in the park, stopping at the various temples and shrines situated within it.

On the ground

The J Team

Tel: +81 (0)3 6721 5313

www.thejteam.jp

Osaka Convention & Tourism Bureau

Tel: +81 6 6282-5900

www.osaka-info.jp

InterContinental Osaka

Tel: +81 (0) 6374 5700

www.intercontinental.com

Tags :

business events

Incentives

Japan

Osaka

Tokyo

[LEAVE A COMMENT](#)

0 Comments

グリコマンの次の大きな戦い

日本第2の都市には、その繁華街の愛される象徴的な広告板としてグリコの看板があるが、最新の街の話題はイノベーションだ。地元観光局では、ハイテク企業、新しいインフラと施設の開発が新しい大阪の礎になると感じている。

新規開発事業は、大阪駅周辺地域である梅田を中心に行われ、第1期事業としてコ・ワーキングワペース、ショッピング街、最適な会議の場、5つ星ホテル、そしてキャピタルコングレコンベンションセンターがみられた。

今、その第2期開発事業として、16ヘクタールの区画が新しいビジネスの企業や、医療、科学技術、新駅、そしてオフィスや緑地庭園を含む複合商業施設として生まれ変わる予定である。

第1期事業の成功が支えとなり、梅田は複合施設とその周辺のイベントの会場オプションのホストの提供や、革新的なビジネスや、知識共有計画のインキュベーターとして発展している。梅田の外でも、大阪はグループインセンティブの提供としても素晴らしい。

アクティビティの企画を切望する立案者は、華やかで色彩豊かなミナミや日帰りで隣の奈良への散策、また開閉式のボートに乗り街の水路をのんびりとクルージングする計画もできる。

梅田

大阪駅から徒歩5分、インターコンチネンタル大阪は29～32階に位置するプレミアムレジデンスが家族連れや長期滞在者に人気だ。この貸住居は、宿泊地としてだけではなく、優雅な一時的の自宅のような空間を提供してくれる、と話すのは販売宣伝部ディレクターベッティナ・プラスチンガー氏だ。‘レジデンスのバルコニーでは、カクテルパーティを行うのがだんだんとグループ客に人気が出てきている、そして有難い事に私たちの素晴らしい景色のおかげで8月の毎年恒例の花火大会の間のイベントに多くの関心を得ている。’

梅田の最新のホテルの1つ、インターコンチネンタル大阪は4つの会議室、展示スペース、そして大宴会場があり、それに伴うプラズマTV、プロジェクター、PAシステム、運搬できるダンスフロアやビデオ会議システム等の一連の備品も提供できる。ホテルはさらに、代表団達へ地元からインスパイアを受けた体験や、地元の環境や社会に利益をもたらすCSRプロジェクトや現地外チーム育成活動等のイベントに地元の登壇者をアレンジする事も可能だ。

5つ星のおもてなしを別としても、いくつものアウトドアスペースは梅田周辺地区で行われるイベントに使用されている。緑豊かな環境の中、グランフロント大阪南館9階にあるガーデンテラスと大阪駅前すぐに位置するウメキタプラザは開放的な屋外のスペースでカクテルを楽しんだり、映画上映やカジュアルな会議に適している。北館ガーデンテラスは、屋上にある本物の庭園であり、代表団達は近隣の他の高層な建造物の景色と一緒に緑豊かな景観を楽しむ事ができる。ザ・ガーデンと呼ばれる北館の北側にある4,000平方メートルのスペースは、熱狂的な都市からの休息を提供するような大規模なイベントの為のもう1つの選択肢である。